

「パウロの派遣式」

～わたしたちも派遣されている～

「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選んだのです。そして任命しました。だから、あなたがたは行って、いつまでも残るすばらしい実を結びます。また、わたしの名前によって父に求めるものは、何でもいただけるのです。」 ヨハネによる福音書15章16節[リビングバイブル]

桜も散り、新緑の季節がやってきました。春夏秋冬をはっきりと味わえる日本、そして、信州に生きていることを主に感謝します。花粉症や激しい温度変化について行くことは中々大変ですが、季節の風をはっきりと感じられるのも豊かな恵みであると思います。私たちの人生もそうであると感じます。

本日は礼拝後に納骨堂にて「春の召天者記念礼拝」を行います。いつもイースターの時期に行いますが、それは主によって私たちの復活を信じ、味わうためでもあります。先日天に召された本村兄弟の納骨式はありませんが、彼も私たちの教会のお墓に入りたがっていました。ご家族もまだ悩んでおられます。どうぞご家族のためにもお祈りください。

青木一正兄も本村弘兄もすばらしい夢をもっておられました。それは、将来を担う子供たちに対する夢でした。青木兄はアウトドアのキャンプが好きでしたから、自然の素晴らしさを通して、創造主なる神様のことを子どもたちに伝えたいという夢を持っていました。本村兄は山之内のスキー場のふもとにある大きなペンションに住んでおられましたが、そのペンションを経営なさっていた時期もありましたが、将来は東京や首都圏に住んでいる子どもたちを受け入れてスキーなどを通じて山之内の子どもたちとの交流をしたり、悩みや問題を持っている青少年たちが立ち直れるようにケアするというような夢を持っておられました。

私自身、この二人の兄弟と様々なお話を致しましたが、このお二人のヴィジョンをお聞きして、私自身の心が感動し、燃やされました。今でもその時の記憶がリポートさせられます。このお二人がお元気なら、一緒に大きな働きができたかもしれないと思いながら、しかし、今は天国におられて、私たちを応援しておられる。残された私たちに何ができるのか？与えられた働きに忠実でありたいと思います。

祈禱会でカーペンター先生のメッセージを聞きました。祈りの中で聖霊に導かれてメッセージを与えられて、シリアの難民の子どもたちに100万足もの新しい靴をプレゼントするということでした。そして更に祈りの中で助けが与えられそれが実現したというお証でした。私たち自身にも主が働いて、遣わされ、実を結んでいくことができると信じます。